

現行計画の実績①（2019、2020、2021年度かながわ文化芸術振興計画年次報告書より）

（資料2-2）

年度	効果	課題	今後の方向性
重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用			
R元	<p>公演やワークショップといった機会を通じて、伝統的な芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介することで、県民の理解・認識を深めることができた。また、日本大通りや神奈川県庁舎で事業を実施し、幅広い年代層に興味を持っていただけるように工夫した企画を行い、「日本大通り流鏝馬騎射式」では、県内外のおよそ4,000人の方に来場いただくなど、日頃は伝統文化に興味を持っていない方にも、その価値を認識していただくことができた。</p> <p>学生向けのワークショップや公演では、事業をきっかけに、終了後も継続して伝統的な芸能に取り組む児童・生徒もおり、伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成に一定の効果を得ることができた。</p>	<p>人口減少の影響により、地域において伝統的な芸能の継承者が減少するという問題があり、参加や鑑賞する側の人についても、触れる機会の減少やその価値が広く知られていないことから、伝統文化が失われていく恐れがある。また、公演事業においては高齢者層の来場が多く、ワークショップについては、県内各地域で実施し、次世代を担う青少年の参加者をより増やすための取組が必要である。</p>	<p>県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統的な芸能を知る機会をもち、価値を知って大切に継承していただけるような公演やワークショップ等の事業や、伝統的な芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。</p> <p>その際、県内市町村とも連携しながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせていく取組を検討する。</p> <p>また、次世代を担う青少年が文化財や伝統的な芸能に興味を持つような企画・広報を検討し、より幅広い世代に発信する取組を進める。</p>
R2	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な制限がある中、オンライン配信等を活用し、公演やワークショップを通じて、伝統的な芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介することで、県民の理解・認識を深めることができた。</p> <p>学生向けのワークショップや公演では、事業をきっかけに、終了後も継続して民俗芸能に取り組む生徒もおり、伝統的な芸能を支える技術・技能の継承者の育成に一定の効果を得ることができた。</p>	<p>人口減少の影響などにより、地域において伝統的な芸能の継承者がいなくなるという課題が見て取れる。鑑賞者についても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた活動の休止などにより、これまで以上に触れる機会が減少してしまった。複合的な原因が重なって価値共有が難しくなってしまったことで、伝統文化が失われていくおそれがある。そのため、公演事業については若年者層の来場を増やすとともに、ワークショップについては、県内各地域で実施し、次世代を担う青少年の参加者をより増やすための取組が必要である。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響下では、特に、体験型の企画を実施する場合は工夫しながら、県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統的な芸能を知る機会を持ち、その価値を共に考え大切に継承していただけるような公演・ワークショップ等の事業の継続的な実施や、伝統的な芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。</p> <p>その際、県内市町村とも連携しながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせていく取組を検討する。</p> <p>また、次世代を担う青少年が文化財や伝統的な芸能に興味を持つような企画・広報を検討し、より幅広い世代に発信する取組を検討する。</p>
R3	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、中止せざるを得ない事業があったものの、動画配信への切り替えや入場者数の制限などの新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとることで、講演やワークショップを開催し、さらに、日々の稽古の様子等の動画を制作し配信するなど、伝統芸能や地域で受け継がれている貴重な民俗芸能を紹介することで、県民の理解・認識を深めるとともに記録を保存することができた。</p> <p>「かながわ伝統文化こども歳時記」では、ホール公演に加え、「片瀬こま」の長回しチャレンジなどの体験コーナーを設置したところ大変盛況であり、アンケートでも「日常の中で伝統芸能に触れる機会が減っているなかで、このようなイベントを開催いただきありがとうございます。6歳の子供と一緒に楽しめました。」という御意見をいただくなど好評であった。また、「カナガワ リ・古典プロジェクト in 小田原」のアンケート結果では、「大変満足している」・「満足している」が84.0%、「伝統文化の持つ魅力・価値に大変興味を持った」が53.3%と、好評を得るとともに、本県ゆかりの伝統文化の魅力を発信できた。</p>	<p>人口減少の影響などにより、地域において伝統芸能の継承者がいなくなるという課題がある中、<u>新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止せざるを得なかった事業もあり、これまでと比べて文化芸術に触れる機会が減少してしまっている。</u>複合的な原因が重なって価値共有が難しくなってしまったことで、伝統文化が失われていくおそれがある。そのため、公演事業については若年者層の来場を増やすとともに、ワークショップについては、県内各地域で実施し、次世代を担う青少年の参加者をより増やすための取組が必要である。</p>	<p>県民をはじめ多くの人たちが県内各地域の伝統芸能を知る機会を持ち、価値を知って大切に継承していただけるような公演・ワークショップ等の事業や、伝統芸能の記録を保存し、後世に伝えることを視野に入れた取組を継続して実施する。</p> <p>その際、県内市町村とも連携しながら、各事業の参加者や対象地域を広げていくとともに、地域に根付かせていく取組を進める。</p> <p>また、次世代を担う青少年が文化財や伝統芸能に興味を持つような企画・広報を目指し、より幅広い世代に発信する取組を進める。特に、<u>子どもに興味関心を持ってもらうため、公演事業においても、体験の要素を取り入れた事業を展開する。</u></p>

年度	効果	課題	今後の方向性
重点施策2 子どもや高齢者・障がい者などあらゆる人の文化芸術活動の充実等			
R元	<p>県内の美術作家や文化芸術団体に作品の創作・発表の機会を提供するとともに、県民に優れた美術作品や演劇を鑑賞する機会を提供することができた。</p> <p>また、県立文化施設での子ども向け公演の開催や県内全域でのアウトリーチやワークショップ等を実施したことにより、舞台やオーケストラの鑑賞機会が少ない子どもたちや障がい者が優れた文化芸術に触れ、文化芸術への関心を高めることに繋げることができた。</p> <p>青少年に対する舞台芸術にかかわる人材の育成については、舞台への出演だけでなく舞台の裏方の仕事も学ぶことで、青少年の思考力やコミュニケーション能力などを養い、健全育成に寄与することができた。</p> <p>一般の高齢者が参加可能な劇団を創設したことで、アンケートに回答した劇団員全員が参加して「良かった」、84%の方が心や気持ちが「元気になった」とあり、高齢者の文化芸術活動の充実を図るとともに、共生の理念を普及し「ともに生きるかながわ」の実現に寄与することができた。</p>	<p>舞台芸術以外の分野における創作活動については高齢化が目立つため、より幅広い年代が創作活動を行い発表できる機会を提供する必要がある。</p> <p>アウトリーチやワークショップにおいては限られた回数しか実施できないため、地域的な差異を補完し、さらに多くの県民に文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供する必要がある。また、青少年の文化芸術への関心が高まるとともに、興味が多様化してきているため、県民のニーズを把握し事業に反映していく。</p> <p>共生社会時代に向けた環境づくりにおいては、引き続き、ともに生きる社会かながわ憲章の理念の着実な普及に努め、共生社会の実現に寄与していく必要がある。</p>	<p>年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、創作活動の支援や発表の場の提供を引き続き行っていく。</p> <p>アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するなど、県内全域での実施を目指す。</p> <p>また、舞台芸術人材の育成については、青少年センター等の県立文化施設を神奈川の舞台芸術シーンの拠点として、多くの人材が集える場所として引き続き整備していくとともに、より多くの人材育成が可能となるよう、関係団体と協力しながら取組を進める。</p>
R2	<p>県立文化施設での子ども向け公演の開催やオンラインでのアウトリーチやワークショップ等を実施したことにより、舞台やオーケストラの鑑賞機会が少ない子どもたちや障がい者が優れた文化芸術に触れ、文化芸術への関心を高めることに繋げることができた。</p> <p>青少年に対する舞台芸術にかかわる人材の育成については、舞台への出演を通じて青少年の思考力やコミュニケーション能力などを養い、健全育成に寄与することができた。</p> <p>「シニア劇団」の運営・公演を実施したことで、アンケートに回答した劇団員の93%が参加して「良かった」、53%が心や気持ちが「元気になった」とあり、高齢者の文化活動の充実を図るとともに、共生の理念を普及し「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与することができた。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、アーティストや文化団体だけでなく、一般の方についても創作・発表の機会が減少した。今後は様々な環境下でも継続して文化芸術活動を行うことができるよう、オンライン配信等による創作活動の支援や普及を進める必要がある。</p> <p>また、青少年の文化芸術への関心が高まるとともに、趣味・趣向が多様化してきているため、県民のニーズを把握し事業に反映していく必要がある。</p> <p>共生社会時代に向けた環境づくりにおいては、共生共創事業の裾野を全県に広げることで、共生の理念の一層の普及に努め、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与する必要がある。</p>	<p>年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、創作活動の支援や発表の場の提供を引き続き行っていくとともに、アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するとともに、オンラインでの実施方法も検討しながら、県内全域での実施を目指す。</p> <p>また、舞台芸術人材の育成については、青少年センター等の県立文化施設を神奈川の舞台芸術シーンの拠点として、多くの人材が集える場所として整備していくとともに、より多くの人材育成が可能となるよう、関係団体と協力しながら取組を進める。</p>
R3	<p>県立文化施設での子ども向け公演の開催、オンラインでのアウトリーチやワークショップ等を実施したことにより、舞台やオーケストラの鑑賞機会が少ない子どもたちや障がい者等が優れた文化芸術に触れ、文化芸術への関心を高めることに繋げることができた。</p> <p>青少年に対する舞台芸術にかかわる人材の育成については、舞台への出演を通じて青少年の思考力やコミュニケーション能力などを養い、健全育成に寄与することができた。</p> <p>「シニア劇団」やシニアダンス企画「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」の参加者へのアンケート結果では、「心や体が元気になったと感じた」と回答した方の割合が77.9%あり、高齢者の文化活動の充実を図るとともに、共生の理念を普及し「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与することができた。</p> <p>「神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター」で障がい者の文化芸術を支援するコーディネーター養成のための研修会や勉強会をオンラインで開催し、障がい者を対象とした、ダンスや音楽、美術のワークショップも一部オンラインで実施することで、コロナ禍においても感染症対策をしながら事業に取り組み、障がい者の文化芸術活動を支援する体制の充実に貢献した。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約がある中でも、継続して文化芸術活動を行うことができるよう、引き続き場の提供や広報等による支援や普及を進める必要がある。</p> <p>また、<u>青少年の文化芸術への関心が高まるとともに、趣味・趣向が多様化してきているため、県民のニーズを把握し事業に反映していく必要がある。</u></p> <p>共生社会時代に向けた環境づくりにおいては、共生共創事業の実施地域に偏りが生じていることから、共生の理念の一層の浸透を目指し、<u>文化芸術団体等による取組との連携を図ることで、県内全域での事業展開を推進し、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与する必要がある。</u></p>	<p>年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人までのあらゆる人が文化芸術活動を行うことができる環境づくりのため、他分野との連携も図りつつ創作活動の支援や発表の場の提供を広げていく取組を引き続き行っていくとともに、アウトリーチやワークショップ等については、県立文化施設や関連するNPO等のノウハウやネットワークを生かして、学校や障がい者・高齢者施設等と連携するなど、オンラインでの実施方法も検討しながら、県内全域での実施を目指す。</p> <p>また、<u>舞台芸術人材の育成については、青少年センター等の県立文化施設を神奈川の舞台芸術シーンの拠点として、多くの人材が集える場所として整備していくとともに、より多くの人材育成が可能となるよう、関係団体と協力しながら取組を進める。</u></p>

年度	効果	課題	今後の方向性
重点施策3 国際文化交流の充実			
R元	<p>TPAM（国際舞台芸術ミーティングin横浜）では、公演をはじめとする多彩なプログラムを通じて、情報交換やネットワーク構築の場を提供できた。</p> <p>また、様々な国の音楽・舞台等に触れることができる公演・ワークショップにより、県民がその国や地域の文化芸術を知り、文化交流を行う機会を提供した。</p> <p>県、ベトナム両地域において継続した取組を行うことで、駐日ベトナム大使館をはじめ、首脳級を含むベトナム政府関係者との間で強い友好関係が構築されており、経済など様々な分野においてベトナムとのパートナーシップが強化されてきている。</p> <p>多文化理解の推進については、イベントにより訪日外国人や外国籍県民を含む県民間の交流が促進され、また、県内の学生向けのセミナーの開催等により、多文化共生の意識醸成に繋げることができた。</p>	<p>今後も、国際色豊かな文化事業を展開するとともに、相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進することが必要である。</p> <p>ベトナムとの交流については、これまで構築されたベトナム政府やベトナム関連団体や企業等との交流やネットワークを維持・拡大するとともに、そのネットワーク等を活用し、県内におけるビジネス、文化、教育、観光等様々な分野において、引き続き取組を行っていく効果を上げていく必要がある。また、若い世代やより多くの外国籍県民が参加し、交流できる事業を実施し、多文化理解の推進に取り組む必要がある。</p>	<p>今後も引き続き、様々な国や地域との国際交流事業を実施しながら神奈川県発の文化芸術を海外に発信していくとともに、県立文化施設において国際色豊かな取組を充実させることで、県民の国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進していく必要がある。</p> <p>また、関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍県民に参加を促せるような多文化共生をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解を推進する。</p>
R2	<p>TPAM（国際舞台芸術ミーティングin横浜）では、公演をはじめとする多彩なプログラムを通じて、情報交換やネットワーク構築の場を提供できた。</p> <p>多文化理解の推進については、イベントにより外国人や外国籍県民等と県民との交流が促進され、また、学生向けのセミナーを開催することにより、多文化共生の意識醸成に繋げることができた。</p>	<p>今後も、国際色豊かな文化事業を展開するとともに、相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進することが必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、ベトナム関連団体等との交流は叶わなかったが、これまで構築したネットワーク等を活用し、様々な分野における交流を継続していくとともに、ベトナム政府と締結した覚書に基づき、人材交流を促進する必要がある。</p> <p>また、若い世代やより多くの外国籍県民等が参加・交流できる事業を実施し、多文化理解の推進に取り組む必要がある。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、国際交流事業は大幅に減少したが、今後も引き続き、様々な国や地域との国際交流事業を実施しながら、オンライン配信を活用し、神奈川県発の文化芸術を海外に発信していくとともに、県立文化施設において国際色豊かな取組を充実させることで、県民の国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進していく。</p> <p>また、関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍県民等に参加を促せるような多文化共生をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解を推進する。</p>
R3	<p>YPAM（横浜国際舞台芸術ミーティング）では、オンライン配信を含む公演をはじめとする多彩なプログラムを通じて、情報交換やネットワーク構築の場を提供できた。</p> <p>多文化理解の推進については、イベントにより外国人や外国籍県民と県民との交流が促進され、また、学生向けのセミナーを開催することにより、多文化共生の意識醸成に繋げることができた。</p>	<p>今後も、国際色豊かな文化事業を展開するとともに、相互理解を深めるための国際交流事業の中で文化交流を推進することが必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続き、ベトナム交流イベントの開催は叶わなかったが、<u>これまで構築したネットワーク等を活用し、交流を継続していく</u>とともに、ベトナム政府と締結した覚書に基づき、人材交流を促進する必要がある。</p> <p>また、若い世代やより多くの外国籍県民等が参加・交流できる事業を実施し、<u>多文化理解の推進に取り組む必要がある。</u></p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、2021年度もリアルでの国際交流事業は難しい状況にあったが、今後も引き続き、様々な国や地域との国際交流事業を実施しながら、オンライン配信を活用し、神奈川県発の文化芸術を海外に発信していくとともに、<u>県立文化施設において国際色豊かな取組を充実させることで、県民の国際交流や海外の文化芸術に対する理解を深める取組を推進していく。</u></p> <p>また、<u>関係団体等と連携しながら、より多くの青少年や外国籍県民等に参加を促せるような多文化共生をテーマとした事業を企画・開催することによって、国際色豊かな本県の多文化理解を推進する。</u></p>

年度	効果	課題	今後の方向性
重点施策4 東京2020大会を契機とした施策			
R元	<p>各国の行政機関等と協働した事業の実施や、イベントにオーストラリアやロシアなど7つの国と地域から外交官等の来賓を招くなど、東京2020大会に向けて諸外国との文化交流を促進させるものとなった。</p> <p>「Cultural Programs in Kanagawa 2019-2020」や「マグカル・イベントカレンダー」といった情報誌に「マグカル・ドット・ネット」の二次元コードを掲載したことから、当該サイトのページビュー数が過去最大値を記録し、より多くの人々が県内で実施するイベント等の情報を閲覧することで、イベント等の周知や集客に貢献した。</p> <p>また、首都圏の公道では初めての開催となった「日本大通り流鏝馬騎射式」は翌年度の実施を求める声が多く、伝統的な芸能の継続的な発信や地域の活性化に寄与した。</p>	<p>「神奈川文化プログラム」の認証を限られた地域ではなく、県内のより多くの地域で行っている文化芸術活動に対して認証し、県内の文化芸術活動や地域の継続的な活性化に繋ぐことができるよう、取り組む必要がある。</p> <p>また、これまで交流してきた諸外国とは、東京2020大会以降も継続的に文化交流を行い、より多くの県内に訪れる外国人や外国籍県民等の情報格差を解消し、文化芸術のイベントや活動への参加を促進する必要がある。</p>	<p>今後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京2020大会に向けてマグカル事業を展開していく。</p> <p>その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍県民等に必要な情報が効果的に提供できるよう努める。</p>
R2	<p>「マグカル・イベントカレンダー」に「マグカル・ドット・ネット」の二次元コードを掲載したことや、通年で英語によるインターネット広告を行ったことから、より多くの人々が県内で実施するイベント等の情報を閲覧することで、イベント等の周知に貢献するとともに、将来的な観光客の誘客に寄与することができた。</p>	<p>「神奈川文化プログラム」の認証は芸術文化団体等に対して一定の認知を得ることができた。今後は、各イベントと連携して相乗効果を図るなど、県内の文化芸術活動や地域の継続的な活性化に繋ぐことができるよう、取り組む必要がある。</p> <p>また、2021年に延期された東京2020大会の開催に合わせて、様々な文化プログラムをオンライン配信等により展開してきたが、その後もレガシーとして地域の継続的な活性化に向けた取組を推進する必要がある。</p>	<p>今後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京2020大会のレガシーとしてより充実したマグカル事業を展開していく。</p> <p>その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍県民等に必要な情報が効果的に提供できるよう努める。</p>
R3	<p>東京2020大会公式文化プログラムである「東京2020 NIPPONフェスティバル」のうち、東京2020組織委員会による主催プログラムに、地方公共団体で唯一参画し、「共生社会の実現に向けて」をテーマに、本県の文化芸術の魅力を国内外に向け発信し、共催プログラムと合わせて25,450回視聴されるなど、共生社会の理念の浸透に一定の効果があった。</p> <p>「イヤーズブック」や「イベントカレンダー」により東京2020大会を契機にした文化プログラムなどを積極的に発信するとともに、「マグカル・ドット・ネット」において、今後のインバウンド需要を喚起するため、通年で英語によるインターネット広告を行ったことから、より多くの人々が県内で実施するイベント等の情報を閲覧することで、イベント等の周知に貢献するとともに、将来的な観光客の誘客に寄与することができた。</p>	<p>「神奈川文化プログラム」の認証は、コロナ禍の影響を受け、認証件数は277件と目標の60.2%に留まったものの、芸術文化団体等に対して一定の認知を得ることができた。今後は、各イベントと連携して相乗効果を図るなど、県内の文化芸術活動や地域の継続的な活性化に繋ぐことができるよう、取り組む必要がある。</p> <p>また、東京2020大会の機会を捉え、官民一体となってオール神奈川で盛り上げてきた文化プログラムや文化芸術振興の取組をレガシーとして継承し、「共生社会」の理念の一層の浸透を図るとともに、<u>誰もが文化芸術活動に参加し楽しめるよう文化芸術活動の裾野を広げる取組を推進する必要がある。</u></p>	<p>東京2020大会終了後も引き続き、「神奈川文化プログラム」の認証により、官民一体となってオール神奈川で文化プログラムに取り組むとともに、各地の文化芸術活動が盛り上がるよう文化プログラムを通じて構築された市町村や関係団体等とのネットワークを生かし、東京2020大会のレガシーとしてより充実したマグカル事業を展開していく。</p> <p>その上で、あらゆる人に情報が伝わるよう、県内に訪れる外国人や外国籍県民等に必要な情報が効果的に提供できるよう努める。</p>

年度	効果	課題	今後の方向性
重点施策5 文化芸術の振興を図るための環境整備			
R元	<p>各施設の改修工事等を適切に行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために計画的な整備を行うことができた。</p> <p>人材育成に関する事業については、施設を使い、実際の業務を体験することによって、実践的な研修の場を提供することができた。また、ダンスや演劇等の舞台芸術について総合的に学ぶことで次世代を担う青少年やその指導者の演劇・ダンスの創造活動の発展向上に資することができた。</p> <p>また、市町村・文化芸術団体等との様々な事業や広報を連携することによって、県民が文化芸術のイベント等の情報を知り、参加する機会を創出することができた。</p>	<p>県民ホール本館は開館から45年、音楽堂は65年が経ち、必要に応じて大改修を行ってきたが、全国的に劇場・音楽堂等の文化施設の老朽化が問題になっている中で、本県も県立施設の長寿命化等に向けて、必要な修繕や拡充を計画的に進めていく必要がある。</p> <p>人材育成や情報発信力の強化についても、市町村や文化芸術団体と連携・協力をしながら、限られた地域だけでなく、より多くの地域から多くの人が事業に参加できるような取組を推進する必要がある。</p>	<p>県民ホールなどの県立文化施設について、計画的な維持、保全に努める。</p> <p>また、ソフト面の環境整備に関して、人材育成については、関係団体と連携して、ニーズに沿った必要な取組を継続して実施していく。</p> <p>情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、訪日外国人向けに多言語翻訳記事の作成を行うなど、国内外向けのインターネット広報をさらに展開しながら、市町村や文化芸術団体と連携を行い、県内外の人に情報が等しく伝わるよう、強化していく。</p>
R2	<p>改修工事等を適切に行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために必要な整備を行うことができた。また、光回線配信整備工事を行うことで、無観客・ライブ配信等を利用するための光回線を、利用者に無料で提供できた。</p> <p>また、市町村・文化芸術団体等との様々な事業や「バーチャル開放区」については、「新たな生活様式」による文化芸術の発表方法等により、新型コロナウイルス感染症の影響により、文化施設などに直接訪れることができなかつた県民の方に対しても、文化芸術に触れることができる機会を創出することができた。</p>	<p>県民ホール本館は開館から46年、音楽堂は66年が経ち、必要に応じて改修を行ってきた。全国的に劇場・音楽堂等の文化施設の老朽化が問題になっている中で、本県も県立施設の長寿命化等に向けて、必要な修繕や拡充を計画的に進めてきたが、これまで以上に積極的に実施していく必要がある。</p> <p>人材育成や情報発信力の強化についても、市町村や文化芸術団体と連携・協力をしながら、限られた地域だけでなく、より多くの地域からあらゆる人が事業に参加できるよう、また、オンラインの利点を活かした「新たな生活様式」に適応した取組を推進する必要がある。</p>	<p>県民ホール本館などの県立文化施設について、計画的な維持、保全、拡充に努め、ソフト面の環境整備に関して、人材育成については、関係団体と連携して、ニーズに沿った必要な取組を継続して実施していく。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響により、文化施設に足が遠のいてしまった方も多くいるため、県立文化施設において、万全な新型コロナウイルス感染症対策を講じ、HP等で公開することにより、安全・安心な文化芸術の鑑賞機会の提供が可能であることの理解を促していく。</p> <p>情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向けに多言語化翻訳記事の作成を行うなど、国内外向けのインターネット広報をさらに展開するとともに、市町村や文化芸術団体と連携を行い、県内外のあらゆる人に情報が等しく伝わるよう、継続して強化していく。</p>
R3	<p>改修工事等を適切に行い、利用者の方に施設をより安全に利用していただくために必要な整備を行うことができた。</p> <p>学生を対象とした各種育成事業を実施し、文化芸術施設の現場に早いうちから触れることで、スキルアップやモチベーションの向上に寄与することができた。</p> <p>また、市町村・文化芸術団体等との様々な事業や「バーチャル開放区」については、オンラインでの場の提供など「新しい生活様式」のもとで事業継続に取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響により、文化施設などを直接訪れることができなかつた県民が、文化芸術に触れる機会を創出することができた。</p>	<p>県民ホール本館は開館から47年、音楽堂は67年が経ち、必要に応じて改修を行ってきた。全国的に劇場・音楽堂等の文化施設の老朽化が問題になっている中で、本県も県立施設の長寿命化等に向けて、必要な修繕や拡充を計画的に進めてきたが、これまで以上に積極的に実施していく必要がある。</p> <p>今後の文化芸術の継承、発展のため、<u>より魅力的な人材育成事業を充実させ文化芸術の担い手確保につながる取組や、市町村や文化芸術団体等との連携を生かしつつ、コロナ禍で停滞した文化芸術を振興していくための取組を推進する必要がある。</u></p>	<p>県民ホール本館などの県立文化施設については、計画的な維持、保全、拡充に努め、ソフト面の環境整備については、関係団体と連携して、ニーズに沿った必要な取組を継続して実施していく。</p> <p>情報発信については、「マグカル・ドット・ネット」において、外国人向けに多言語化翻訳記事の作成を行うなど、国内外向けのインターネットによる広報を継続して展開していく。</p> <p>また、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安全・安心な文化芸術の鑑賞機会を提供していくとともに、東京2020大会を機に強化された市町村や文化芸術団体との連携を活用し、コロナ禍でその重要性が再認識された文化芸術活動を盛り上げ、地域のにぎわいにつなげていく。</p>